

# 身近なテーマから福祉を学び考える 「防災と福祉教育」の取り組み

地域を基盤とした福祉教育を展開していくためには、学校と地域の連携や、大人と子どもが共に学び合うことが重要です。また、いかに興味や関心を引き出し、主体的な参加を促すテーマを設定するかが肝心です。今回、学習動機につながりやすく、福祉教育の狙いである豊かな感性や助け合いの心を学ぶ機会として、災害をテーマにした実践を紹介します。

相談を受けて社協は、障がい者自立生活センターと子ども冒険遊び場づくりのボランティアグループを紹介し、企画のサポートを行いました。異なる分野や立場のメンバーが一緒に内容を検討する中で、「段ボールを使って、みんなが快適に過ごせる空間をつくる」をコンセプトとし

各グループに、保護者や障がい当事者、老人会のメンバーが加わり、和気あいあいとした雰囲気の中、子どもたちの自由で豊かな発想と、大人の知恵が組み合わせられて、

きつかけは、自主防災会から岸和田市社協(以下、社協)に「年々、子どもの参加者が減っているため、子どもが楽しんで、要配慮者への視点を育める要素を盛り込みたい」という企画の相談があったことです。

当日は、市の危機管理課から避難所に関する説明や、障がい当事者による身近なバリアについての話を受けた後に、体育館で5グループに分かれて、段ボールを使用した思いの居住スペースづくりに取り組みました。

地域の **ひろば**

“安心と安全の福祉のまちづくりを”

府社協 地域福祉部  
TEL.06(6762)9473 / FAX.06(6762)9487

## 岸和田市社協 コラボが生み出す 豊かな福祉教育

8月22日、岸和田市で、多様な団体・個人の参加による「大芝夏休み子ども防災ひろば」が開催されました。

これは、地域の自主防災会が、毎年、小学校で実施している「避難所一泊体験」をリ



グループ発表に向けて振り返り

ました。

広報では、あえて「災害」や「福祉」、「障がい」といったキーワードを前面に出さず、

「自然なふれあいと共同作業の中で、参加者同士の理解を深めたい」と、社協の青山さんはこだわりを話します。

## 府介護者(家族)の会連絡会

# 20周年 記念講演会

～5年先、  
10年先を見据えて  
次のステージへ～

9月18日、大阪歴史博物館で、府介護者(家族)の会連絡会発足20周年記念講演会を開催し、加盟する26会から約160人が参加しました。

9年8カ月にわたる祖母の介護経験をもつ、介護ジャーナリストの小山朝子さんによる記念講演では、「介護を通じて見えるもの」当事者としての想い」と題し、若い介護者の増加や担い手の多様化など介護を取り巻く状況の変化や、自らの介護体験について話がありました。



小山朝子氏

母の想いに寄り添って仕事と介護を日常化してきた。そんなある日、祖母の「自分は愛されているんだ」と感じてくれているような表情を見た時に、在宅介護を決断してよかったと思えた。相手の感情が自分の感覚のようにわかるという体験ができたのは、介護をしたからこそ」と話されました。

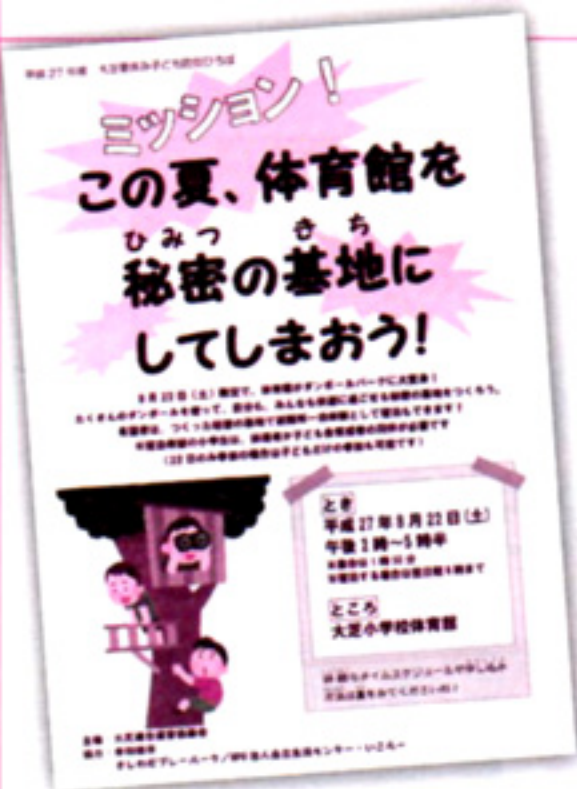
最後に小山さんは「諦めるとするのは明らかに極めるということ。私は、介護をするために色んなことを諦めてきたが、今では「介護を極める」ために諦めたと思えている。みなさまもご家族の介護を極められたエキスパートですね」と敬意を表し、介護者(家族)に寄り添った温かい講演会となりました。



「20代からスタートした介護。『在宅』ではどう対応してよいか分からず、喜び・落胆しながら年月を重ね、祖

展示コーナーでは各会のあゆみや活動をPR!!





特色のあるものが完成しました。

例えば、車イスが入りやすい入口の広さや、着替えスペースの扉を横開き、グループメンバー全員の表札を掲げるなど、随所に配慮が施されていました。

最後は、グループごとに工夫した点を発表。子どもたちからは、「いろんな人が使いやすいように考えた」「みんなで活動して楽しかった」「避難所でも笑顔を大切にしたい」という発言があり、豊かな学びにつながったと思われま

れます。自主防災会のリーダーは、「この取り組みを始めて10年以上になるが、今回はいろんな団体の協力で、充実した内容が実現した。防災は継続することが大切なので、来年も同様に実施したい。また、このような避難所体験が市内全体にも広がれば」と話します。

## 池田市社協 福祉教育の理解を広げる

池田市社協では、市教育委員会と共催して、市内の保幼・小・中・高等学校の教員を中心とした「福祉教育研修会」を開催しました。この研修会は、毎年、子どもの心に響く福祉授業の展開を期待して実施されているものです。今回、講師の日本福祉大学の野尻准教授から、避難所の学習素材にした模擬授業を通して、福祉教育を実践的に紹介されました。

「自分ごと」として考えやすい、災害テーマの特徴をいかし、「避難所のどこに住みたいか」を題材に、話し合いを中心に進めます。

具体的には、さまざまな事情を抱えた人が身を寄せ合うことを念頭に、必要な配慮を考え、さらに「希望が重なったらどうするか」という正解がない課題を議論します。子どもたちが、「難しさ」や「ジレンマ」を感じつつ、「クジ引きやジャンケンではなく、いろんな条件を考えることが平等につながる」という気づき

を得ることを狙いに行っています。

池田市社協の中西さんは、「次世代を担う子どもたちに『暮らしやすい町』とはどういうものかを学んでもらうため、市教育委員会と協力して研修会を企画しています。今後、子どもにとって身近に感じられる題材を教員と一緒に考えながら、地域ぐるみでの福祉教育の展開を図りたい」と話します。



避難所の模造紙を前に、ワークショップを体験

今回の事例は、誰の身にも起こりうるテーマをもとに、当事者の参加や子どもの感性に働きかけることを通し、自然な気づきを得ながら「当事者性」を育むプログラムづくりが特徴です。

今後、ひとつの福祉教育を起点に、さまざまな主体が関わり学び合いを通して、地域の福祉理解が広がり、課題解決に向けた協働の場が生まれることを期待します。

2016年～  
2017年

## OSAKAボランティア手帳 表紙デザイン原画決定!

皆で一緒に幸せになりましょう

府社協では、2年間使用できるボランティア手帳を発行しています。今回はその表紙デザインを、各市町村社協に関わりのある当事者(障がい・認知症・ひきこもり・介護者等)の方から募集しました。

作者の武田時子さんは、認知症の母親の介護を約20年続けました。当初は理解者もなく、暗く長いトンネルの中のように不安な日々。そんな中、出会った人との繋がりから光を見出していったといいます。その頃描かれた作品です。

手帳は11月から1冊300円で販売開始予定。また、当センター1階にて開催中の【ふれ愛♡ギャラリー】では、全応募作品がご覧になれます。お問合せは、大阪府ボランティア・市民活動センター(06-6762-9631)まで。



この喜びを感謝にかえて、母やお世話になったみなさんに伝えたい、と語る武田さん。描いた当時の「夢を持って強く生きていこう」という決意は、今も変わりません。

きっかけはすぐそこに!

## 「ボランティア体験事例集」から発見!

府社協は、これからボランティアをはじめよう!と思っている方々に、ボランティアをより身近に感じ、興味や関心をもつきっかけづくりのために、事例集を発行しました。



小さな冊子で手に取りやすくなりました。ぜひ、皆さんのお手元に!

福祉施設やいきいきサロン等での交流、子どもの学習支援、傾聴ボランティア等、心豊かな体験事例が掲載されており、実際のボランティア体験者や、受け入れ側の声を知ることができます。

また、その他にも参加しやすいボランティアとして、収集活動や募金活動等も紹介しています。

大阪府ボランティア・市民活動センターのホームページで公開しております。ぜひご覧ください。

検索はこちら▼

大阪府ボランティア・市民活動センター

検索